事　業　概　要

月日	曜日	内　容
4/3	月	派遣学生募集開始
4/21	金	派遣学生募集締め切り
5/14	日	派遣者選考　　（国際交流センター）
6/4	土	第１回派遣学生研修会　（太田市役所南庁舎大研修室）
6/18	土	第２回派遣学生研修会　（太田市役所南庁舎大研修室）
6/25	土	第３回派遣学生研修会　（太田市役所南庁舎大研修室）
7/9	土	第４回派遣学生研修会　（太田市役所南庁舎大研修室）
7/16	土	第５回派遣学生研修会　（太田市役所南庁舎大研修室）
7/25	火	出発式　（太田市役所４階　庁議室）
7/25	火	太田市役所出発　　（10 時 30 分） 成田空港発　　（17 時 25 分　AA170 便）
8/7	月	バーバンク出発　　（7 時 00 分） ロサンゼルス国際空港発（11 時 00 分 AA169 便）
8/8	火	成田空港着　　（15 時 25 分） 太田市役所到着　　（19 時 30 分）
8/17	木	帰国報告会　　（太田市役所４階　庁議室）

現 地 日 程

月日	曜日	内　容
7/25	火	到着　歓迎パーティー ホストファミリーと一緒に帰宅 市長表敬訪問、夕食
7/26	水	バーバンクツアー 警察署・消防署見学 ニコロデオン・スタジオツアー
7/27	木	UCLA 大学訪問 Getty ミュージアム見学
7/28	金	LA ボタニカルガーデン見学 ジェット推進研究所見学 プールパーティー
7/30	土	ファミリーデー
7/31	日	ファミリーデー
7/31	月	ワーナーブラザーズスタジオツアー ジョン・バーロース高校にて写真科のクラスを体験 ホストファミリー交換ピクニック
8/1	火	電車でロサンゼルス繁華街へ移動、散策 レンガ造りの全米日系人博物館見学 浄土宗本院見学、日本食ランチ ザ・ブロード（現代美術館）見学 グランドセントラルマーケット散策
8/2	水	カリフォルニア科学センター見学
8/3	木	ユニバーサルスタジオ・ハリウッド
8/4	金	サンタモニカビーチ ピクニックランチ
8/5	土	ファミリーデー
8/6	日	ファミリーデー さよならパーティー
8/7	月	出発日（帰国）

■ 団長

わたしは、２週間のこのプログラム間、マッケンジー夫妻のお宅にお世話になった。このお宅の隣に住む夫妻には孫がいて、今、日本で働いているということだった。「孫が毎日のように twitter を更新するのだが、時々日本語で書かれていて読めないので、時間のある時に家に来て読んでほしい」と言われていたので２週目の週末、お宅にお邪魔した。夫妻のお話では、このお孫さんは今年で３２歳、１０年以上前にこの姉妹都市交換留学プログラムで日本に来たのだそうだ。その時に日本のことがとても好きになり、アメリカの大学を卒業後、日本の大学に留学、今は日本でイベントの司会や通訳などをして働いているそうである。また、別の男性にも会った。その男性もやはり高校生の時にこのプログラムで日本に来て、日本でいろいろな刺激を受けたそうである。そして、カリフォルニアの寿司レストランで日本食を学び、今は、別の日本食レストランでシェフとして働いているということであった。「将来は、自分の日本食レストランをオープンさせたい」という夢に向かって頑張っているのだそうだ。現地での毎日の活動にボランティアとして参加してくれたアメリカ人の高校生や大学生もそうだ。数年前、彼らが日本に行った時の感動を今も忘れずにボランティアとして参加してくれている。アメリカに着いて間もない時、日本の生徒達は英語への自信のなさやステイ先での慣れない環境などからか、なかなかアメリカ人の生徒達と話ができないでいた。そんな時にボランティアのアメリカ人の大学生が、日本に来た時に覚えた片言の日本語を使いながら積極的に日本人の生徒の中に入ってくれ、場の空気を和ませてくれた。それは、アメリカの生徒と日本の生徒が仲良くなるきっかけにもなった。

このプログラムに参加するにあたって、２年前に引率をされた斉藤先生とお話をする機会があった。斉藤先生も１０数年前、このプログラムで太田からバーバンクに行き、いろいろな経験をしたのだそうだ。今、斉藤先生は英語の教員として仕事をされている。このプログラムに関わる人々との出会いの中で強く感じたことは、このプログラムがどれだけたくさんの人の人生に影響を与えているかということである。プログラムが終わった後もお互いの家族と交流を続け、行き来をしている人達がいる。自分の職業にまで影響を受けたというほどでなくても、たくさんの人達が、お互いの国や地域を知りそこに親近感を持って生活している。ステイ先の家族に暖かく迎えてもらったという感謝の気持ちやお互いの国での素晴らしい経験を胸に持ち続けている。だから、カリフォルニアで山火事が起きているというニュースを聞けば心配になり、日本で地震が起きたと聞けば太田はどうなのだろうと気になる。このプログラムには人々の気持ちをそんな風に変える力と変えてきた歴史がある。そして、そういう人々の気持ちそのものが国際交流なのだろう。そんなことを考え感じ続けた現地での２週間であった。今回、引率した１０名の生徒達も、ステイした家族の中で、見学地や体験したことの中で、それぞれ考えたことや感じたことがあるはずである。それらの考えたこと・感じたことは小さな種となって生徒達の心の中に育っていき、いつか芽を出していくのだと思う。引率者として「で

きるだけ良い種をたくさん生徒達の心の中に蒔いてあげたい」という気持ちで過ごした２週間でもあった。
　どんな種を蒔くことができたのか、これからどんな芽を出していくのか今はまだ分からないけれども、ファミリーへの感謝の気持ちや素晴らしい経験をしたという思いは、きっといつまでも生徒達の心の中に残っていくのだろうと思う。
そんな経験をさせてくださった太田市国際交流推進課のみなさん、バーバンク姉妹都市委員会のみなさんとホストファミリーのみなさんにとても感謝している。

■ 副団長

「日本はどんどん便利になり、また、とても綺麗で安全な国にもなっており、若者は日本を出ようとしない。それはあらゆる面において、日本人を弱くしている」
　ロサンゼルスの浄土宗本院の主任・中村孝道さんが仰っていた言葉がとても印象に残っている。本事業を通し、その言葉の意味を、そして国際化する時代の中で日本人がどう行動していくべきかについて、考えてみた。
　学生時代に地理学を専攻したことがきっかけで、「異文化」や「多文化共生」という言葉に興味を持ち、時間を見付けて何度か海外旅行をしたことがある。様々な地へ赴き、目で耳で、鼻で、肌で、舌で、外国の文化を感じてきた。それは必ずしも、楽しく、快適なこととは限らない。不衛生な食の管理、詐欺や窃盗、強盗等の事件、職を失い路上で物乞い生活をする人々等を目の当たりにしたこともある。しかし、そうした経験により、日本を離れた環境へ適応する方法や、身の守り方を知る事も出来た。
　本事業においても、２週間の滞在が生徒達にとって全て快適だったという事は無いと思う。日本ほどは衛生的でない環境や、治安が不安定な場所を目にすることもあったと思う。大袈裟かもしれないが、そうした経験は、身体に悪い、危険という負のイメージを与えるだけではなく、前述した自分の経験のように、その地にどう適応してどう生き抜くかを学ぶ機会でもある。
　「今回の経験で、日本がどれほど恵まれているのかを知ることができた」
　帰国報告会で、ある生徒が本事業の感想をこのように述べていた。日本と他国を比較できたからこそ、分かったことである。自国を離れ外国へ行くことで、自国の本質についての理解も深めることができたのだ。
　他国での適応方法にしろ自国の本質にしろ、実体験を通さなければ、身に付け、理解することはできない。しかし、日本は島国であり、日本国民が日常的にそうした経験をする機会は少ない。一方、今回訪問したアメリカを始め、世界の国の多くは他国と陸続きで、自国の外の文化と接し、学ぶことに慣れている。本事業において自分のホームステイ先であった Ieraci 家のホストマザーは、家に着いたばかりの自分にこう話してくれた。「飲み物は冷蔵庫から好きなものを取ってね。ここはあなたの家なんだから、遠慮しないで！」
　会ったばかりの外国人である自分を、すぐに家族として迎えてくれた。日本にと

ってのアメリカ、アメリカにとっての日本、どちらからしても相手は文化の違う自分たちの外の国であるが、その心理的距離間は異なるのだろう。

では、国際化が進みグローバルな視点が求められると言われている現代において、外国との心理的距離感が遠い傾向にある我々日本人はどうするべきなのか？その答えはとてもシンプルで、不慣れだからこそ、積極的に「交流する」ことだと思う。それは、実体験を通して自国の本質を知り、その本質を伝えながら相手国についても知る相互理解である。快適だからといって日本を出ないままでは、そのチャンスを自ら手放すばかりだ。日本を離れた地で自ら積極的に交流できる人が、国際的な視野を身に付け、世界で活躍できる人材となるのだと思う。本事業が、太田市のこれからを担う若者にとって、そうした人材へと成長するきっかけとなることを願っている。

最後に、自分自身が国際交流についての理解を深めることができ、また、生徒達の成長を日々目の当たりにできた、このような素晴らしい事業に自分を送り出してくださった職場の方々、事前研修から帰国まで、引率業務の全面でお世話になった団長の荒川先生、本事業をあらゆる面からサポートしてくださった太田市国際交流協会の方々、現地姉妹都市員会の方々、自分を家族として受け入れてくれたホストファミリーの Ieraci 家、そしてカリフォルニアで出会った全ての方々に、心から感謝申し上げます。

今後もずっと、太田市とバーバンク市の絆が続きますように。

■ 太田市立城西中学校　女子　２年

小さい頃から英語を習っている私は「いつか留学をして自分の語学力を試してみたい」と思っていました。思い切って応募した今回の「平成２９年度バーバンク市交換学生派遣事業」の交換学生に選んでいただけたことを大変嬉しく思っています。また太田市国際交流協会の皆さまをはじめ、荒川団長、高橋副団長、９名の団員、また現地でお世話になった姉妹都市委員会、ホストファミリー、学生の皆さまには心から感謝しています。

一緒に参加する皆さんとの初顔合わせとなった第１回研修会では「みんなと仲良くできるかな？」と、とても緊張していたのを憶えています。たくさんの期待、また正直不安もありましたが研修会を重ねていくうちに少しずつみんなと打ち解け合うことができ、しだいに不安は解消されていきました。出国までの研修会では毎回多くの事を学び、より一層期待が膨らんでいきました。

出国当日、市役所での出発式終了後成田空港へ向かい、その後約１０時間のフライトを経てバスでバーバンク市へ移動。

到着したバーバンク市は曇り空でしたが現地の方々は太陽のように明るく、とても元気に出迎えて下さりました。初対面とは思えないくらいの歓迎に大変驚き、フライトの疲れも一瞬で吹き飛びました。

私が二週間お世話になったホストファミリーのFallmanさんは毎日忙しくお仕事

をされているのですがとても陽気で常に笑顔を絶やさないご家族で、私たちを本当の家族のように迎え入れてくれました。和食器を好み、食事や朝のあいさつは日本語を使い、日本の文化についてもたくさん勉強されていました。家の中には日本を感じさせるものがところどころに飾ってあり、日本が好きなご家族だとすぐにわかりました。一緒に食事の支度や洗濯をしたり、パズルや自宅プールでの水遊び、多くの英語表現を教えてもらい、私達は日本語を教えてあげたり、会話をする時間をたくさん作ってくれました。ファミリーデーにはホストファミリーと友人家族にキャンプに連れて行ってもらい、４歳と７歳の子供たちと折り紙、鬼ごっこ、バドミントンをして交流をもちました。小さい子供たちは日本語が全く通じなかったので大人と会話をするよりも言いたいことを英語でどう伝えたらよいか考えるのに苦労しました。しかしキャンプが終わるころには伝えたいことが前よりも早く言葉になって出てくるようになっていて、その経験が私にとってとても良い勉強になっていたことに気づかされました。ひとつひとつの出来事すべてが大切な思い出です。バーバンク市長表敬訪問を始め、警察、消防署、全米日系人博物館、カリフォルニア大学等、たくさんの施設を見学させていただく事ができました。ユニバーサルスタジオ・ハリウッドではたくさんのアトラクションをみんなで楽しみました。

この二週間で私が学んだもの、それは「優しさ」です。英語で言葉を上手く伝えられない私の気持ちをバーバンク市の皆さんは一生懸命理解しようとしてくれ、年齢、性別関係なく、まるで以前からの友人のように接してくれました。そのおかげで私も恥ずかしがらずに自分から声をかけ関わることができ、語学力より「伝えよう」「理解しよう」いう気持ちが一番大切だとわかりました。おかげでたくさん友達ができ、帰国してからも連絡を取り合っています。

優しさは国境や人種を越え人々を笑顔にし、結びつけてくれる事を実感しました。私は今回の交換留学を通してたくさんの方から受けた優しさを忘れずいろいろな事に進んで挑戦して、太田市だけでなく日本と外国との架け橋になれるような国際的な人間になりたいと思います。

「またみんなでバーバンクに行こう！」

仲間と交わしたこの約束を実現させる日を楽しみにこれからも頑張ります。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

■ 群馬県立中央中等教育学校　女子　２年

ハワイ旅行の経験はあったが、本土上陸は初ということもあり、日本を発った時は楽しみで仕方なかったバーバンクへの留学。しかし、フライト中徐々に、英語できちんと会話できるだろうか等の不安に襲われた。そんなことはお構いなしに時間は過ぎていき、気づけばLos Angeles Airportに到着。バスに乗っている間は眠っていたが、もうすぐ着くと言われ起きた後は、やはり不安になりドキドキしていた。しかし、図書館に着きホストファミリー達がにこやかに手を振っている姿を見た途端に、不安はワクワクに変わり、私のホストファミリーは一体誰なんだろう！とい

う高揚感を覚えた。建物の中に入るとすぐに私の 1 週目のホストシスターの Samantha が「あなたは私のうちに泊まるのよ！」と楽しそうに話しかけてくれた。ウェルカムパーティーの間に Samantha は写真などを見せながら家族の紹介をしてくれ、初めて会うのに学校の友達同士のような雰囲気になれ、とても安心した。このような歓迎を受けたおかげで、私の Burbank は順調にスタートした。

やはり、異国の地ということで日本と違う。アメリカ独自の文化だ。と感じたことがあったのでそれを紹介しようと思う。例えば、２週間過ごしていて何度も「recycle」という単語を耳にしたり見たりした。町のゴミ箱は燃えるゴミと recycle に分かれていて、道行く人々はきちんとそれに従いゴミを捨てていた。また、家の中でもペットボトルを持ち、どこに捨てたらいい？と聞くと、recycle !といい、捨ててくれた。これらのことから、アメリカ人は recycle 精神が強いということを感じた。

また、私の中で最も印象強かったことが、次の出来事である。初めのウェルカムパーティーでも何人かの人と挨拶を交わしたが、その頃は緊張していて挨拶が機械的な感じだった。しかし、その後２週目の Fallman 家で父 Howard や２人の息子と初めて会った時は、アメリカの生活にも少し慣れていたので自然な挨拶ができた。お互いに名を名乗り、よろしくといい、にっこり笑顔でハンドシェイクをする、という簡単な挨拶。しかし、私はこれをするだけで距離が縮まっている気がして、回数を重ねていくうちにこの挨拶がいかに大切か、そして初対面の人に対して常に挨拶をし心の距離を縮めようとするアメリカ人の精神に感動し、とてもこの一連の流れが好きになった。

このような発見に満ち溢れた毎日が終わりを迎える頃、Farewell Dinner が開かれ、いよいよ出国の日。２週間共に過ごしたファミリーや仲間と離れるのはとても悲しく、必ずまた一緒に留学したメンバーと共にアメリカへ再訪したい、そう思った。

始めは、ここまで充実した２週間になるとは思っていなかった。しかし、Burbank の人ととても仲良くなれ、アメリカの生活から様々なことを学び、もっと英語を勉強したい！と強く実感する、内容の濃い、有意義な２週間だった。このような素晴らしい経験をさせていただき、太田市国際交流協会の方々、清水市長、引率の先生方、研修から留学中のサポートまで、本当にありがとうございました。ホストファミリーの方々、バーバンク市長、私たちを温かく迎え入れてくださりありがとうございました。そして、何もわからない中で皆で助け合い、楽しんだ仲間達。このメンバーで本当に良かった。ありがとう。

■ 太田市立城西中学校　男子　２年

僕は、小学校三年生の時に、交換留学生をホストファミリーとして迎え入れたことが英会話でのコミュニケーションに興味を持つ大きなきっかけとなりました。短い間でしたが、一緒に花火をしたり、遊んだりと、とても楽しいひと時を過ごす

ことができました。ただ、当時はあまりコミュニケーションをとることが出来なかったので、もっと英会話が出来るようになりたいという想いがより一層強くなりました。そして、昨年はバーバンク市から交換留学生を再びホストファミリーとして迎え入れました。アメリカでの学校生活や友達の話などとても沢山の話をすることができました。今でもメールのやりとりをしていて、お互いの学校の話など情報交換をしています。積極的に自分から色々な人たちとコミュニケーションを取りたいと思いこの留学に参加しました。

この留学でアメリカの生活や文化など日本では味わえない体験をしました。空港からバスでバーバンクに向かっている最中どんな出会いがあるか心配でした。バスを降りたらホストファミリーや現地の関係者がいて私たちを心から歓迎してくれました。名前しか知らずに初めてあったバーバンクの人たちですが話しているうちに仲良くすることができました。どの場所にも興味を持ちましたが特に興味を持ったのはＪＰＬ見学で見たマーズ２０２０です。火星に生物が過去に存在していたかを調査するこのプロジェクトにすごく感動しました。また全米日系人博物館で教わった日本からアメリカにわたってきた人々の話は大変心に残りました。なぜなら日系アメリカ人になった人々が偏見と戦いながら戦争の中、強制収容所での生活をしいられたりしながらそれらを乗り越えていった話を聞いたからです。この体験が人権のことを深く考える大きなきっかけとなりました。

ホームステイ中に印象に残ったのはホストブラザーズで折り紙やボードゲームで遊んだことや祖母に着物で作ってもらったお手玉を渡したらとても喜んでもらったことです。ホストブラザーズとは将来の夢、文化、アメリカ、日本など様々なことを語りました。なかなか言いたいことが上手く伝わらない事がありました。そういう時はジェスチャーをしたりちがう表現で伝えたりしました。多くの外国人と話すことで自分の英語力はもちろん、どのように伝えればいいのかよくわかりました。

アメリカの自信文化に触れ、失敗を恐れず何事にも積極的に挑戦出来た有意義な留学生活だったと思います。団長からも言われましたが今回学んだ事を忘れないように時々思い出し学んだことを振り返りたいと思います。

これからの課題としてまた英語をもっともっと勉強して、いつかまたバーバンクに行きたいと思います。

この派遣事業に参加して多くの感謝を伝えたいと思います。僕に大きな一歩を踏み出すチャンスをくれた太田市、最高のおもてなしをしてくれたバーバンク市、姉妹都市委員会の皆様、ホストファミリー、最高の時間を過ごした日本の仲間たち、背中を押してくれた家族。本当に感謝しています。ありがとうございました。

■ 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校　女子　３年

私にとっての初めての海外はこの研修でした。
この研修に参加したいと思ったきっかけは幼稚園の頃から小学六年生まで習っていた英会話です。英語を話すのは好きでしたが、いつもの積極的にコミュニケーションが取れずにいました。中学生になってからはALTの先生に自分から話しかけてるように心がけ、さらに英語で話すことが好きになりました。またALTの先生に発音がいいと褒めていただいたこともあり、英語の本場であるアメリカに行って、もっと英語を使ってみたい、自分の英語がどれくらい伝わるのか試したい！と思うようになりました。そして今回本当にバーバンク市に行くことが出来ました。

実際にバーバンク市に行って、自分の実力は正直まだまだだと思いました。発音が悪く、相手に聞き返されることや、言いたいことがあっても、語彙が足りずに連想ゲームのようになってしまうことが何度もありました。しかし現地の皆さんは私の拙い英語を理解しようとしてくださり、本当に嬉しかったです。現地の方が温かく接してくださったおかげで、伝わらない時もめげずに、むしろ「こんな経験は滅多に出来ないのだから、もっと積極的に英語を話してみよう！」と思えました。

また英語を話すという面以外でも様々な体験を通して学んだり、発見することが出来ました。例えば、アメリカ人は自国愛が強いということです。家の玄関に国旗が掲げられていたり、私がホームステイさせていただいたお家では、テーブルクロスが国旗柄だったりしました。バーバンク市での二週間、私は何度もアメリカの国旗を目にしました。またアメリカ発のエンターテイメントがとても愛されているということにも驚きました。

私がバーバンク市で印象に残ったことは、アメリカ人は沢山の質問を投げかけてくる、ということです。私の家族、学校、趣味、日本文化についてなど様々なことを聞かれました。私は今まで相手の話、いわば相手の語る物語を聞くのが得意な人が「聞き上手」なのだと思っていました。しかしアメリカ人はそうではありません。相手を知りたい、つまり相手に近づきたいと思う気持ちが強く、自然と沢山の質問をします。その質問は相手を深く知り、また聞かれた側も自分自身を見つめ直すきっかけとなります。これも「聞き上手」なのではないでしょうか。アメリカ人の自国愛の強さはこの「聞き上手」ゆえなのではないでしょうか。

私はこれからの長い人生の中で沢山の人と関わっていきます。その中でこの二週間で学んだアメリカ式の「聞き上手」になって、世界中の人と交流し、様々な文化を知ったり色々な視野から物を見る力を養いたいと思いました。それと同時に自分自身のことや自分に関わる物事、例えば太田市のことや、日本のことを知り、相手に発信していかなければならないと思いました。

この研修で素晴らしい体験をさせていただけたことを、太田市国際交流課の方をはじめ、渡航までの準備から帰国まで関わってくださった方々、ホストファミリーをはじめとするバーバンク市の方々、この研修を支えてくださった全ての方々に感謝したいと思います。

■ 群馬県立中央中等教育学校　男子　３年

私はこの交換留学生の研修を通して、たくさんのことを学ぶことができました。また、貴重な体験が数多くできたことに、とても感謝しています。それらの中でも、最も印象に残ったことは、主に三つあります。

一つ目は、コミュニケーションは大切だということです。ホームステイに行く前までは、私は英語を話すということに関して、あまり自信がなかったので、とても心配でした。ホストファミリーの言葉を聞き取れるのか、またしっかり会話ができるのかなどです。しかし、実際にアメリカに行ってみると、これらの心配は不要でした。ホストファミリーの方々は、とてもフレンドリーで、明るい方たちばかりでした。私は時々英語を聞き取れないことがありましたが、そんな時は簡単な英語に言い換えて話してくれ、私は英語を理解することができました。また、英語がどんなに話せたとしても、自分の意見を持っていなかったり、日本のことをよく知っていないと、そもそもの会話すら成り立たないのだと思いました。たとえ、英語の発音がカタカナ読みのようになったり、文法が間違っていたり、時制が統一されていなかったとしても、相手に伝えることができるのだと実際に感じることができました。また、OK や yes、yeah などを明るく言うだけでも、その場の雰囲気がよくなり、コミュニケーションが取れているのだと思いました。このようなことから、完璧な英語を話すことよりもコミュニケーションが大切なのだと思いました。

二つ目は、客観的に見るということです。今回バーバンクに滞在し、日本という国を異なる視点で見ることができたので、日本の良さを改めて感じました。日本の良さとしては、食べ物の種類が豊富、礼儀がしっかりしていることなどです。一方で、異文化であるアメリカの良さもわかりました。アメリカは、電柱が少なく景観が美しく、また、ゴミ箱が多く設置してあり、ポイ捨てが少ないことなどです。どちらの国にも、それぞれの良さがあるのだと思いました。これらの良さに気づくことができたのは、それぞれの国を、体験を通して感じることができたからだと思います。また、家族の大切さについても改めて考えることができました。家族は、普段から一緒に生活しているので、一緒にいることが当たり前のようになっていましたが、今回二週間離れて生活し、改めて一緒にいて安心することができるありがたい存在なのだ、と強く思いました。このように、それぞれの国だけでなく、家族についても客観的に見ることができたのは、大きいと思います。

三つ目は、食文化の違いです。日本は米を主食としていますが、アメリカは小麦を主食としています。アメリカではハンバーガーやピザを食べることが多かったです。先程も述べましたが、日本は食べ物の種類が豊富であると思いました。数多く

の種類があることも寿命が長いことである要因の一つなのではと思いました。また、アメリカの食べ物は全体的に味の濃い食べ物が多く、甘いものはとても甘さが強く感じました。アメリカではこれがごく普通のことであるため、日本とアメリカの食文化は違うのだな、と肌で感じることができました。

このように、私は普段の生活では決して体験することのできないとても良い経験をすることができました。また、ホームステイをしたことで、自分の英語力不足を実感したので、英語の勉強をさらに頑張りたいと思いました。さらに、日本のことについてもっと知っておいたら、会話が弾んだかもしれないと思うこともあったので、まずは自分たちが住んでいるところをよく知る必要があると実感しました。この経験を忘れずに、今後の学習に役立てていけたら、と考えています。

■ 太田市立旭中学校　女子　３年

私は、７月２５日から８月８日まで、アメリカのバーバンクへホームステイに行きました。今回が初めての海外だったので、とても心配でした。でもバーバンクの人はみんな優しくて、困った時は助けてくれたのでとても良い経験をすることができました。

７月２５日、歓迎パーティー。私たちが初めてホストファミリーと会った日。どの家の人も明るく話しかけてくれたので、みんな緊張がほぐれ、初日にも関らずたくさんの笑顔が見られました。７月２６日、市長へのあいさつ。バーバンク市長に挨拶に行きました。とてもラフな方で終始笑顔でお話しをして頂きました。市民も知らないようなマニアックな話や、歴代の市長の話など様々な話をして頂きました。

７月２７日、カリフォルニア大学。構内でレアルマドリードというサッカーチームを見ました。有名なサッカーチームだったので、みんなのテンションも上がってました。７月２９日と３０日はファミリーデー。私はファミリーデーにキャンプに行きました。テントを張って、ホストファミリーの友達の家族と一緒に楽しみました。日本では鬼ごっこという遊びを“タグ”と言っていたのでびっくりしました。日本語と英語の違いを改めて感じました。７月３１日、Ｔシャツ染め体験。この日は公園でオリジナルＴシャツを作りました。Ｔシャツを輪ゴムで結び、ペンで色を塗ってアルコールを吹き付け乾かすと出来る簡単なＴシャツ作りを体験しました。その後、本物の卵を使ってゲームをしました。ヒヤヒヤして面白かったです。

８月１日、日系人博物館見学。アメリカの為に頑張り続けた日本人の兵隊の話を中心にいろいろな話を聞きました。人種差別を受けてもアメリカのために命を賭けて戦争を戦った兵隊の人たちがかっこいいなと思いました。８月３日、ユニバーサルスタジオ。日本のユニバにも行ったことがなかったのですごく楽しかったです。水を使ったショーは前列の人に容赦なく水をかけるのでアメリカらしいなぁと思いました。８月５日、ファミリーデー。午前中はお買いものへ行きました。いろいろなお店へ行ってすごく楽しかったです。午後は、映画を見ながらオーケストラの生演奏のショーを見ました。迫力がすごい。８月６日、さよならパーティー。ホス

トファミリーと過ごすのもあと少しとなった日。素敵なダンスや、スライドショーを用意してくれて、嬉しかったです。きょうが最後だと思うと心が少し痛みました。
　私は自分の英語力に自信が持てず、たくさんの人に助けられて生活した二週間でした。太田市の代表としてこの１２名で行けたことが最高の思い出です。これからは、今回の経験を生かして、今後の生活に役立てたいです。そして、英語のスピーチ大会やコンクールなどがあれば、積極的に参加したいです。高校や大学に行っても今回の経験を活かし、よりネイティブな発音などを学べるようにホームステイなどの国際交流のプログラムに参加したいです。
　もし、またこのメンバーでバーバンクに行けるなら、今度は私がみんなを助けることができるように成長したいと思います。

■ 群馬県立前橋高等学校　男子　１年

　バーバンクでの二週間、課題に追われる日々、この夏休みは今までで最も充実していました。バーバンクでの二週間はとにかく充実していてあっという間でした。きっと高校３年間でこれほど充実した二週間はないと思います。今はもちろん日本で生活していますがバーバンクでの生活は夢物語のように感じます。可能であるなら、今すぐバーバンクに帰りたいです。
　初日、私たちはアメリカに飛行機で向かいました。しっかり寝ておいたほうがいいと言われましたがアメリカへの期待と興奮なのか飛行機の強すぎる冷房への対策ができていなかったのか、一時間ほどしか眠れませんでした。またアメリカと日本は太平洋を挟み経度差が大きいので時間をさかのぼることになり一日がとても長かったです。カルフォルニアは乾燥していて日差しが強かったです。乾燥、日差しはお肌にとって大きな敵となりますが、「日本一の汚肌県」の異名を持つ群馬県の男子高校生にとって気候の良し悪しの判断基準は過ごしやすいか、過ごしやすくないかなので関係ありません。カルフォルニアは夏でもとても過ごしやすかったです。
　一週目のホームステイ先には一つ年下の男子がいるということで楽しみにしていました。ウェルカムパーティーの時、ホストファミリーと写真を撮る機会があり１つ年下のオースティンに会ったのですが唖然としました。私は１７７㎝ほどあり身長は高いほうですが、その僕より何センチも大きく体格もとても良く本当に１４歳なのか信じられませんでした。日本人とアメリカ人の体格差に驚きました。ファミリーデイの時、私はユニバーサル・スタジオ・ハリウッドに隣接しているシティーウォークというところで家族や友達へのお土産を買ったりしました。昼ご飯はシティーウォークの日本食レストランで食べました。人生で初めてカルフォルニアロールというものを食べました。美味しかったのですが、日本のお寿司とは全くの別物と考えずに口にしたので、衝撃を受けました。そういった食文化の違いを肌で感じることができたのもよい経験になりました。

英語での日常会話に関してはあちら側が身構えてくれていたのか、そんなに苦でありませんでした。ただ話をしていて自分のボキャブラリーの少なさを実感しました。今後バーバンクを訪れた時は友達といろいろなことについて深く話せるように英語力を鍛えたいと思いました。来年の夏にはテイラーやオースティン、ダニエル、ライリーなどがバーバンクから交換学生として太田に来る予定だと聞きました。彼らが私たちを歓迎してくれたのと同じように私たちも日本のおもてなしの心を持って日本に迎えたいと思います。

今回の私にとっての大きな目標はバーバンクで友達を作ることでした。一緒に遊んだり、会話をする中で仲良くなり、連絡先を交換することもできました。今後もコンタクトを取り良好な関係を保っていきたいです。バーバンク市交換学生派遣事業で日本ではできないようなたくさんの経験することができました。これらの経験を今後の勉強や生活、前高で行われるオックスブリッジ研修などで役に立てたいと思います。また私は今回、第二の故郷を得ることができました。何年か後にはみんなでバーバンクを訪れることができたら良いなと思います。

バーバンク市交換学生派遣事業という素晴らしい機会を設けてくださりありがとうございます。今後もバーバンクと太田が姉妹都市として良好な関係を保っていけるように微力を尽くしたいと思います。

■ 太田市立太田高等学校　女子　１年

バーバンク市派遣事業に参加して、まずは留学をするにあたり、私たちを支えてくださった方々に感謝を伝えたいと思う。様々な手続きをしてくれた太田市国際交流協会、最高なおもてなしをしてくれたバーバンク市、家族の一員として私たちを扱ってくれたホストファミリー、共に最高な夏を過ごした日米の仲間に心から感謝しています。

成田空港から飛び立ち、１０時間という長い空の旅を終え、初めて地に足をつけた場所。そこは私が長年、夢見ていた地「アメリカ」だった。様々なバックグラウンドを持った人々が住んでいて今まで海外経験がない私でも一つの国の中で世界中の国の文化に触れることができ、私の国際的な視野を広げる可能性を持っている国だ。空港に着いた私は「夢が叶った」という嬉しさの半面、不安もあった。事前研修会の時に男女関係なく打ち解けた仲間は幼い頃から英会話を習っていたり、表現をつけながら英語でスピーチをする子など太田市の代表というだけあり、それぞれ異なる英語力を持っていた。そのような子達と一緒に留学をする中で、私だけ会話ができなかったらどうしようという思いがあった。このような気持ちを抱えたまま、市長やホストファミリーが持つ図書館へ向かった。この不安な思いは、まるで杞憂だったように挨拶を交わした時に一気に解消された。自分の思いを伝える際に時間がかかったとしても待ってくれ、時には助言してくれたりと話す言語は異なっても一生懸命理解しようとしてくれた姿勢が不安がなくなった最大の要因だったと思う。この歓迎パーティーのおかげで良いスタートを切れた。バーバンク市での

二週間は本当に充実したもので日常生活でも新鮮なものばかりだった。滞在時間の平日は警察署や消防署などの市内にある多くの施設を訪れた。その中で様々な人種の人々が働いている姿を目にした。そして「世界のメディアの中心」と言われるだけあり、たくさんの映画製作スタジオがあった。その中でも「トムとジェリー」や「バットマン」などで有名な映画会社のワーナーブラザーズの本社を見学することができ、産業の面にも目を向けられたと思う。またアメリカと日本の食べ物は全く違い、クッキーを例にとってみると中に水飴が入っているかのような食感だった。そして違う点は「食」だけではなかった。日本人は家に入るときに靴を脱ぐ習慣があるだろう。アメリカはそのような習慣がないと分かっていたが、玄関で無意識に靴を脱ぐと、“Oh, you don’t have to take off your shoes”とホストマザーに言われ、このように文化の違いも感じることができた。

ホストファミリーと過ごす週末のファミリーデイでは、観光スポットを全て回ったのでは、と感じるほどたくさんの場所へ連れて行ってもらった。ハリウッドサインを見に行ったり、ハリウッドボウルでオーケストラ＆映画、ゴーカート、レーザータグ、バーチャルリアリティーなどアメリカでの生活を満喫した。特に印象に残っている経験は教会へ行ったことだ。教会というと堅苦しいイメージがあったが実際には祈るという儀式だけではなく、ロック調の音楽に合わせて歌ったりと、私にとってこの出来事はアメリカの文化に直接触れる貴重な経験となった。

帰国する日、バーバンク市の人たちが見送りに来てくれた。ホストファミリーにハグをして別れを告げる時、涙があふれて止まらなかった。バスが出発した後、アメリカ人の生徒たちが走って追いかけてくれた。故郷を離れるような感情で胸がいっぱいになった。

バーバンク市の人たちが私たちにおもてなしをしてくれたように、来年日本に来る留学生を迎えたいと思っている。また最高な仲間たちと「家族」が待っているバーバンクへ帰りたい。

■ 常盤高等学校　女子　２年

今年の夏、一生の思い出になるような体験が出来ました。貴重な体験が出来たことを本当にうれしく思います。

私が今回応募しようと思ったのは、日本で海外の方に話しかけられた時に上手く答えられず相手を困らせてしまった事がきっかけでした。自分が海外に行き、言葉の通じる人に出会ったらどんなに安心するだろう。私がそんな存在になる為にはこのままじゃだめだ。そう悩んでいた時にこの事業を知り、応募しました。

今までの中で海外の方と話した経験はほとんどありません。あっても、ALT の先生や道を尋ねてくる方と少し話した程度です。英語も得意ではありません。研修会のとき、ALT の先生が来て下さりお話されていたのですが、あまり理解出来ず周りの子は笑ったり頷いたりしている光景を見て、すごく不安でした。２週間やっていけないんじゃないかという気持ちのまま日本をたちました。

飛行機を降りると、別世界みたいでした。日本語が全く使えない環境に不安になりました。入国審査を終え、緊張しながらホストファミリーの待つパーティー会場へ向かいましたが、ホストファミリーの方々が笑顔で手を振って迎えてくれて、安心しました。

そこからの２週間はあっという間でした。最初の方は緊張もあって日本人は日本人、向こうの人は向こうの人で固まって行動することがとても多かったです。環境に慣れてくるにつれ、だんだんと打ち解けていくことができました。バスの中で歌を歌ったり、公園でゲームしたり、普通に日本でやっていることで盛り上がる事ができました。

最初の１週間くらいは会話がなかなか続きませんでした。おどおどして終わったり、考えている内に次の話題になってしまったり。でも２週間いる中でやはり「話せないことに慣れる」ようになりました。自分で簡単な言葉に直し「それってこういう意味？」と聞いたり、辞書を使うことへの恥を捨てることが出来ました。少しずつ会話の受け答えが増えていくのはたまらなく嬉しかったです。ただ、そこで感じたのは向こうの方も「慣れている」ということ。何回も受け入れたりしているので分かりやすくゆっくり話してくれます。だから聞き取れてきたと思っても、定員さん等の言葉はなかなか聞き取れませんでした。自分はまだまだなんだと痛感しました。

初対面の人の家に泊まるのも不安で仕方なかったですが、本当の家族のように接してくれて向こうに行ってから不安は一つも感じませんでした。いろんな場所に連れて行ってくれて、美味しいご飯を沢山食べさせてくれました。お互いの生活や文化についてたくさん聞けたし、たくさん教えてあげられました。テーマーパークに行った時に、待ち時間でお互いの難しい発音や文法を教えあったのは２週間の中でも特にいい思い出です。

私が今回の留学で学んだ事は「笑顔の大切さ」そして「結局は同じ人間である」ということです。笑顔で迎えてもらった時あんなに不安だったのに一瞬で気が楽になりました。２週間の間も笑い合うことで仲良くなれたと感じる場面がたくさんありました。ホストファミリーはメールにあなたの笑顔をみれて私達も嬉しかったと書いてくれました。笑顔によってお互いの心がグッと近くなる、そう感じました。言葉や文化は違くても分かり合えることを知りました。帰国後も LINE やメールでやり取りし合えています。距離は遠くても同じ話題で盛り上がれることに感動しました。

今までどこか違う世界のように感じていた人たちを、こんなに近くに感じられるようになった今だからこそ、お互いの文化や言語の違いにもっと目を向けてみようと思います。

■ 群馬工業高等専門学校　女子　３年

私は主に、日本とアメリカの学校の違いを知るために、また、日本食を現地の方々に食べてもらうために今回の派遣事業に応募しました。

まず、学校についてですが、２週間の間に、私はカリフォルニア大学をはじめとする３つの学校を見学することが出来ました。そこで気が付いたことは、学校自体の規模の大きさと、学ぶことが出来る分野の幅広さです。一つの高校には、校庭にそれぞれ独立したフットサルコート、野球グラウンド、バスケットボールコート、テニスコートがあり、校内には本格的な写真スタジオやホール、木工室や航空研究室などがありました。その高校では、数えきれないほどたくさんある授業の中から、自分の興味のある授業を選択することが出来るそうです。日本では、ほとんどの高校に決められた時間割があり、学べる分野もさほど広くないため、とても新鮮な感覚でした。高校の施設の多さ、敷地の広さでも十分驚きましたが、カリフォルニア大学の広さは想像を絶するものでした。医学部だけでもいくつもの建物があったり、校内に山のような場所があったりと、迷子にならずに目的地にたどり着けるようになるまでには相当な時間がかかるのではないかと思いました。

次に、日本食についてです。出発前、私はアメリカで日本食を作り、それをホストファミリーに食べてもらおうと思っていました。そのために必要な調味料を日本から持参し、ファミリーにもどこかのタイミングで料理をしたいと伝えました。しかし、それは叶いませんでした。毎晩、外食の予定が入っていたり、帰宅する時間が遅かったり、あまりにも疲れたりしていたのです。結局、持って行った調味料は使われることなく、いくつかの日本食レシピとともにアメリカに置いて帰ってきました。目的を１つ果たせなかったのは大きな心残りですが、その分アメリカの食べ物をたくさん食べられたという意味ではよいことだったかもしれません。

家以外の場所で過ごす期間として、今回の２週間というのは私にとって最も長い期間でした。しかし、それは今までで一番短く感じた２週間でした。２週間で英語力が向上したとは思えません。考えてみれば、日中はほとんど日本人と一緒に行動していたのでそれは当然のことでしょう。しかし、コミュニケーションをとる力は大きく向上したと思います。言葉だけで伝えられないときにはボディーランゲージを用いたり、時にはメモ帳に絵を描いたりしながら、必要最低限のことはどうにか伝えることが出来ました。元々、自分の気持ちを相手に伝えることが苦手でしたが、少しはそれに対する苦手意識が薄れたようにも感じます。また、日本で普通に生活していては関わることがなかったであろう、年も性別も国籍も違う友達がたくさんできました。さらに、今まで以上に英語が好きになりました。これから先、英語が得意であればそれはとても大きな強みになると思います。将来、旅行でも仕事でも、行ける限りたくさんの国に行ってみたいという希望があるので、そのためにこれからも積極的に英語を学んでいきたいです。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。